

# TUMSAT-OACIS Repository - Tokyo

University of Marine Science and Technology

(東京海洋大学)

## 第四部 汐路丸航海調査報告平成23年度(2011年度) 航海報告

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2013-03-18 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://oacis.repo.nii.ac.jp/records/464">https://oacis.repo.nii.ac.jp/records/464</a>

## 1. 平成 23 年度（2011 年度）航海報告（Fiscal Year 2011 Cruise Report）

### 1.1 概要（Annual Year 2011 Cruise Report）

本船は、東京港を拠点とし東京湾及び館山湾及びその周辺海域において実習航海、及び実験航海を行っている。

練習船汐路丸の平成 23 年度（2011 年度）は、オリエンテーション航海、実習航海、演習航海、実験航海、公開講座、研修航海、入渠工事回航でのべ 87 日、3,021 マイル航走した。

**オリエンテーション航海**は例年入学式直後に行われているが、本年度は平成 23 年 6 月 6 日午前と午後、海事システム工学科及び海洋電子機械工学科の 1 年生が乗船し東京港見学と船内見学を行った。

**実習航海**は海事システム工学科航海システムコース 3 年生、海事システム工学科情報システムコース 3 年生、海洋電子機械工学科機関システム工学コース 4 年生、海洋電子機械工学科制御システム工学コース 3 年生、及び、流通情報工学科 3 年生が乗船した。

海事システム工学科航海システムコース 3 年生は前期と後期の実習航海を行った。前期は平成 23 年 4 月 26 日から 5 月 12 日迄に 2 組みに分かれそれぞれ 3 日間の航海を行った。この実習は、揚投錨実習、航海計画立案実習、気象観測実習レーダ操作実習、電波航法計器の調査、消火講習等、船橋当直、停泊当直、その他を学ぶことを目的としている。

後期は平成 23 年 10 月 18 日から 10 月 28 日迄に 2 組みに分かれそれぞれ 4 日間の航海を行った。前期の実習項目の習熟とそれに加え揚投錨実習を英語で行う海事英語実習を目的としている。



Fig.1.1 救命設備説明



Fig.1.2 クロスベアリング

海事システム工学科情報システムコース 3 年生は前期と後期の実習航海を行った。前期は平成 23 年 5 月 31 日から 6 月 2 日迄に 3 日間の実習を行った。この実習は操縦性能試験及び操縦性能解析、動揺データ計測、船内システム調査、運航情報・映像情報収集、船橋当直、停泊当直、その他を学ぶことを目的としている。後期は平成 23 年 11 月 29 日から

12月8日迄に2組みに分かれそれぞれ3日間の航海を行った。この実習は自動制御実験、船橋当直、停泊当直、・その他を学ぶことを目的としている。

海洋電子機械工学科機関システム工学コース4年生は平成23年5月17日から5月26日迄に2組みに分かれそれぞれ3日間の航海を行った。この実習は、機関及び推進・抵抗実験、F〇噴射ポンプタイミング計測等、非常操船、消火講習等、機関当直、船橋当直、停泊当直、その他を学ぶことを目的としている。



Fig.1.3 夕食



Fig.1.4 機関当直

海洋電子機械工学科制御システム工学コース3年生は平成23年11月8日から11月17日迄に2組みに分かれそれぞれ3日間の航海を行った。この実習は、Z操縦試験、機関特性実験、機関室当直、船橋当直、停泊当直、その他を学ぶことを目的としている。

流通情報工学科3年生は平成23年6月14日から6月23日迄に2組みに分かれそれぞれ3日間の航海を行った。この実習は、操縦性能・旋回径測定、船橋当直、停泊当直、その他を学ぶことを目的としている。

**演習航海**は海事システム工学科航海システムコース3年生及び海事システム工学科情報システムコース3年生が後期11月から1月迄に各コース2組に分かれ金曜日午後それぞれ4回、東京湾にて操縦性能測定、自動制御等の演習を行った。

上記各実習航海及び演習航海には担当教員が乗船し学生指導にあたった。

**実験航海**は年間5回東京湾及び館山湾とその周辺海域に於いて3日間の航海を行った。実験には、横浜国立大学の船舶実験やデンマーク工科大学、東京農工大学、名古屋工業大学、電子航法研究所、日本無線株式会社、三井造船(株)玉機技開、株式会社ミクニから研究者乗船し本船の機器、研究機材及び研究者の計測機器等を用いて、データ収集を行った。また、海運ロジスティック専攻(3級水先)の学生が乗船し、実習及び運航データの収集を行った。

**公開講座**は公開講座最終日の平成23年7月2日に公開講座修了者を対象として、東京港から横浜港、中ノ瀬、東京湾横断道路海ほたるを経由する東京湾クルーズを実施した。本年度は講座の講師を務めた東京海洋大学客員准教授さかなクンが乗船し盛況だった。

**研修航海**は平成 23 年 10 月 4 日に舶用工業会加盟各社社員の乗船研修を行った。研修をつうじて本船の運航状況、船内見学、航海当直を体験し船舶運航の知識・理解を深めた。

**入渠工事回航**は平成 23 年 8 月 29 日から 9 月 16 日迄に新潟造船株式会社三崎工場に於いて第 1 種中間検査工事を行った。



Fig.1.5 入渠時のスクュー



Fig.1.6 出渠

## 1.2 汐路丸要目表 (Ship Specifications)

Name of Ship: Shioji - maru Type: Training Ship, Motor Ship

Owner: Tokyo University of Marine Science and Technology

User: Tokyo University of Marine Science and Technology  
4-5-7 Konan, Minato-Ku, Tokyo, JAPAN

Port Registry: Tokyo Call sign: JG4644

Name of Master: TakanoriMOCHIDA

Dimension: Length Overall 49.93 meters Breadth 10.00 meters  
Length (P.P.) 46.00 meters Depth 3.80 meters

Gross Tonnage: 425 tons

Main Engine: Diesel Engine 1,400ps × 1, Single Screw (C.P.P.)

Cruising Speed: 14.12 knot

Complement: Officer 6 persons, Crew 6 persons, Professors 6persons,  
Cadets 44persons,  
Total 62persons

Navigation Equipments:

GPS navigation system, ARPA radar, Doppler sonar, E.M.log,  
Echo sounder,AIS, ECDIS, INT-NAV system,  
Maritime Broadband Communication System,etc.

このページは非表示です。

This page is hidden from view.